

中期経営計画「SPEED 25/30」(2021年度～2030年度)

VISION

スペシャリティ製品を軸としたオリジナリティにあふれるポートフォリオと
環境に優しいモノづくりで、持続可能な社会の実現に貢献する企業

メッセージ

保土谷化学グループは、

- S** スペシャリティ製品を軸としたオリジナリティにあふれる
- P** ポートフォリオを構築し
- E** エンゲージメントの向上による
- E** ESG経営の推進と
- D** DXによる競争力強化で

「目指す姿」(2025年度)

「ありたい姿」(2030年度)に

スピーディーに変わってまいります

保土谷化学グループの「2025年度までの目指す姿」

事業強化

- 「戦略事業」「基盤事業」それぞれの持続的な成長を実現
- 選択と集中を進め新たなポートフォリオを構築

新製品創出

「事業戦略のロードマップ」

- 戦略事業の技術革新を推進し、事業拡大に貢献
- 研究開発テーマの早期事業化
- 新たな領域展開のために研究開発テーマの持続的な創出

生産性向上

- 新製品を速やかに立ち上げる体制の完備
- 環境に優しい製品を、常に高い生産性で、安全・安定に生産

経営基盤強化

- 組織能力の向上
- 働きがいの向上
- 社会的価値の頭頭への対応
- 財務面でのさらなる改善
- 業務効率の向上

成長に資する「戦略投資(事業<M&A含む>・設備・IT・インフラ)」の実行

「サステナビリティの推進」「DXの推進」

2030年度のありたい姿

事業強化

事業ポートフォリオが適切に構成されている

規模拡大

グローバル市場に新製品が継続して創出されている

効率化

高い生産性を実現している

従業員視点

働きがいが向上している

社会的視点

SDGs達成に貢献し、環境に優しいを実現している

株主視点

長期に継続して安定的な配当を実現している

DXの推進

フェーズ1

フェーズ2

経営目標の進捗

		2021年度実績	2022年度実績	2023年度実績	2024年度実績	2025年度経営目標
財務目標	売上高	418億円	433億円	442億円	485億円	500億円
	営業利益	64億円	37億円	39億円	48億円	75億円
	営業利益率	15.3%	8.5%	8.9%	10.0%	15%
	ROE	8.1%	5.3%	5.5%	6.6%	9%
非財務目標	CO ₂ 排出量(CO ₂ 排出原単位)	49,247t-CO ₂ (1.176t-CO ₂ /売上高百万円)	45,722t-CO ₂ (1.055t-CO ₂ /売上高百万円)	35,649t-CO ₂ (0.805t-CO ₂ /売上高百万円)	31,661t-CO ₂ (0.652t-CO ₂ /売上高百万円)	43,400t-CO ₂ (0.868t-CO ₂ /売上高百万円)
	エネルギー原単位(売上高・百万円当たり)	0.698kl	0.636kl	0.495kl	0.466kl	0.606kl
	産業廃棄物発生量	2,746t	3,477t	2,523t	3,076t	前年度発生量以下
	ESG評価スコア(FTSE Russell評価)	2.7	3.0	3.6	3.5	3.7
	エンゲージメントスコア	—	—	—	—	スコアの段階的向上
	女性管理職比率	10.8%	11.0%	11.3%	12.1%	13%

中期経営計画「SPEED 25/30」(2021年度～2030年度)

「SPEED 25/30」2024年度の進捗

中期経営計画「SPEED 25/30」の4年目となる2024年度は、雇用・所得環境の改善等による個人消費の持ち直しやインバウンド需要の回復を受けて、緩やかながら回復傾向を示しました。一方で、国際情勢の不安定化に伴う資源価格の高止まり、為替市場における円安基調の継続、さらにはインフレ進行による物価の上昇が、企業のコスト構造に影響を及ぼしました。

そのような中、環境と人に優しいアルミ着色用染料の需要拡大を踏まえた供給体制を強化するため、保土谷化学の国内製造拠点における製造設備の増強を進めることを決定しました。

2024年度 事業面での進捗

セグメント	サブセグメント	事業強化	新製品創出	生産性向上	実績	
					売上高構成比	営業利益構成比
機能性色素	有機EL・先端材料事業	- 顧客との関係強化、技術紹介 - 新規材料での用途拡大 - 国内評価拠点強化 - 新バイオ棟 (BioPark) 稼働による事業拡大 - 韓国2工場の新設・稼働	- 有機ELの開発推進 - 新規テーマの探索を推進 ーリチウムイオン電池材料 (有機正極材料) ーペロブスカイト型太陽電池材料 ー近赤外線吸収材料 - 新製品開発に資する試作専用設備の設置	原単位削減のコストダウン	51.8% (251.4億円)	79.0% (38.3億円)
	色素材料事業	環境対応型アルミ着色用染料の上市	環境対応型アルミ着色用染料の開発推進			
機能性樹脂	機能化学品事業	新規バイオ PTG の上市・拡販	- 特殊グレードの開発 - ホスゲン誘導体ベンチスケール設備の設定	ホスゲン誘導体生産設備の増設検討と推進	17.4% (84.5億)	▲1.1% (▲0.5億円)
	建築材料事業	次世代塗膜防水材の拡販				
基礎化学品	パーオキシサイド事業	過酢酸 (食品添加物) の用途拡大			15.4% (75.1億)	8.5% (4.1億円)
アグロ	農薬事業	農業用過酸化物の事業拡大		酸素供給剤の生産能力の増強	11.3% (55.1億)	6.2% (3.0億円)
物流関連	物流関連事業				3.7% (17.8億円)	7.2% (3.5億円)

2024年度 主要な施策の進捗

経営基盤強化		2024年度実績	2025年度非財務目標
戦略投資		韓国 REXCEL 忠州キャンパス 第2工場、陰城キャンパス 新工場稼働開始	—
エンゲージメントの向上	- 健康経営の推進 - ダイバーシティ人材の活用	- 健康経営優良法人 5年連続認定 - フレックス制度の適用拡大（試験導入） 「本の要約サービス」導入 - 従業員株式給付制度の対象者拡大決定	- エンゲージメントスコアの段階的向上 - 女性管理職比率：13%
サステナビリティの推進	- CO₂排出量削減 - エネルギー原単位の削減 - 産業廃棄物発生量削減 - 電力使用量削減 - ESGの推進	- CO₂排出量削減：31,661t-CO₂（0.652t-CO₂/売上高百万円） - エネルギー原単位の削減：エネルギー：0.466kL/売上高百万円 - 産業廃棄物排出量削減：3,076t - CO₂フリー電力使用（横浜工場、南陽工場、筑波研究所） - ICPの活用 - ESG評価スコア（FTSE Russell評価）：3.5	- CO₂排出量削減：43,400t-CO₂（0.868t-CO₂/売上高百万円） - エネルギー原単位の削減：0.606kL/売上高百万円 - 産業廃棄物発生量削減：前年度発生量以下 - ESG評価スコア（FTSE Russell評価）：3.7
DXの推進・業務効率化		- ERPシステムの更改 - 業務効率化の推進による業務時間削減 - RPA人材育成 - 押印業務の効率化	—

■ 戦略投資・新たな事業ポートフォリオの構築

機能性色素セグメント：アルミ着色用染料 製造設備の増強に着手

奥野製薬工業株式会社との共同開発によるアルミ着色用染料に関して、今後の需要拡大を踏まえた供給体制の増強計画の検討に着手いたしました。

軽量で耐食性および強度に優れ、リサイクルしやすいアルミニウムは、スマートフォンや電子機器などで広く利用され、そのカラーアルマイト染料の需要は拡大しております。また環境と人に優しい染料として、重金属を用いずに優れた染色性を持つ「メタルフリー染料」のニーズが一層高まっていることから、保土谷化学の国内生産拠点における製造設備の増設を進めてまいります。



アルミ着色用染料

「SPEED 25/30」2025年度以降の取り組み

中期経営計画「SPEED 25/30」は折り返し地点を迎え、「2025年度までの目指す姿」を示すフェーズ1の最終年度としての取り組みを進めております。

2025年度の経営目標については、当初策定した利益目標との乖離が生じている状況です。引き続き、国際情勢の不安定化による資源価格の高騰などが企業のコスト構造に大きな影響を与えており、製品価格へのコストの転嫁が追いつかない部分もあるため、利益確保が当初の想定よりも困難な状況となっております。

今後、「2030年度のありたい姿」を示すフェーズ2に向け、事業ポートフォリオの再構築、新規開発品の上市、一層の業務効率化およびDXの推進を通じて、収益力の向上を図ります。これにより、企業価値の向上と持続可能な成長を実現するべく、全社一丸となって取り組んでまいります。

事業面での取り組み

セグメント	サブセグメント	事業強化	新製品創出	生産性向上
機能性色素	有機EL・先端材料事業	●グローバルな技術サービス拠点の最適化（技術紹介・顧客との関係性強化） ●グローバル事業に資する人材の育成&確保 ●半導体用材料への展開を推進	●次世代技術への対応 ●有機EL材料の開発推進 ●新規テーマの探索を推進 —¹リチウムイオン電池材料（有機正極材料） —有機太陽電池材料（ペロブスカイト）	●専用設備の設置（安定的生産基盤確保）
		●カラーフィルター材料の拡販 ●新規機能性色素分野への展開	●新規テーマの探索を推進 —近赤外線材料・新製品開発に資する試作専用設備の設置	
	色素材料事業	●環境対応型アルミ着色用染料の上市・拡販	●環境対応型アルミ着色用染料の開発推進	●アルミ着色用染料の増産体制の確立
		●天然色素の用途開拓（食用以外） ●ハラル色素・天然色素の海外新規市場開拓		●環境対応型アルミ着色用染料の供給体制の確立
機能性樹脂	機能化学品事業	●新規バイオPTGの上市・拡販 ●ホスゲン誘導体のグローバル拡販強化	●特殊グレード品の開発 ●新規ウレタン材料の開発推進	●ホスゲン誘導体生産設備の増設
	建築材料事業	●次世代塗膜防水材の拡販		
基礎化学品	パーオキシサイド事業	●工業薬品分野での拡販 ●過酢酸（殺菌・食添用途）での拡販	●農畜資材の用途開発	●計画的な設備更新
アグロ	農業事業	●新規原体導入による事業拡大 ●農業用過酸化物の事業拡大 ●新規緑地事業での需要開拓 ●開発・販売における顧客との関係性強化	●酸素供給剤を用いた新規農業資材の開発 ●過酸化物の農業への応用検討	
物流関連	物流関連事業	●ISOタンクコンテナ保管事業の拡大 ●DXアイテムの導入による物流効率化の推進		●IT活用による自動化・運用の効率化検討

主要な施策の取り組み

経営基盤の強化	内容
戦略投資	●ホスゲン生産設備増強 ●アルミ着色用染料・環境対応型アルミ着色用染料の設備増強 ●筑波研究所、クリーンルーム棟建設および蒸着機増設 ●韓国 忠州キャンパス 第2工場、陰城キャンパス 新工場の設備増設
エンゲージメントの向上	●従業員株式報酬制度の対象者拡大、混合型ジョブ型制度の導入検討、各種新規施策の実行による人的資本投資の拡充 ●フレックス制度の適用拡大 ●「本の要約サービス」 ●健康経営の推進 ●ダイバーシティ人材の活用
サステナビリティの推進	●ESGの推進 ●CO₂排出量削減 ●電力使用量削減 ●産業廃棄物発生量削減
DXの推進・業務効率化	●保土谷化学グループが蓄積しているデータの利活用 ●業務効率化のさらなる推進（業務効率化推進PJ） ●研究開発におけるマテリアルズ・インフォマティクス活用 ●RPA化の推進およびDX教育とリーダー育成 ●生産設備のIoT化による、安定稼働の取り組み

新たな事業ポートフォリオ構築のイメージ

2025年度までの重要施策を実行し、新たな事業領域に発展させることを目指し、「事業戦略のロードマップ」に示した「目指す分野」への展開を加速します。

[保土谷化学グループのイノベーションの歴史→P.11](#) [事業戦略のロードマップ→P.32](#)

